

始まりは計画表から

1 私の恥ずかしマップ

いよいよ新年度を迎えますね。皆さん、今年度はどんな1年にしたいですか？私は、自分の目標や年間の計画などを、図解にして表すことが好きです。趣味といってもいいかもしれません。人から、暇だねえ、よくやるねえ、などといわれますが、めげずに作っています。今回、そんな私の、恥ずかしマップを、思い切って一挙公開することにいたしました。

● 図1 100個の目標プロジェクト

年の初めに、この1年間の目標を100個書き綴ります。なかなか100個はできませんが、頑張ってます。ただ書き綴るのでは芸が無いので、私は、楽しみながら1枚の絵の中に書き入れるようにしています。ポイントは、すべて「～を達成しました！」などと、過去形で書くことです。

● 図2 レイルロード

昨年、縁があり、フィンランドの高校と手紙のやりとりをしました。私は英語が不得意なので、絵をメインにして学校の1年間を紹介しました。イラストレーターのようにはいきませんが、意外と評判でした。レイルロードを走る電車の視点で、眺めることで、年間の見通しが立ちます。これは、計画だけでなく、1年間のまとめや反省にも使えます。

● 図3 鳥瞰図

数学教育のあるブックレットを作成したときの表紙の絵です。このようなグラフィティによって、アウトラインがくっきりとしてきます。

そして、書きたいことが明確になり、項目どうしのつながりを意識することができます。

2 学習・授業とは何だろう

因みに、私は、1年間で、図1に書いた100個の目標の7割近くを達成することができました！

これは、単に書き上げるという「魔法の呪文」によって願いが叶ったということではなく、書き上げることで、「やるべきこと」「やりたいこと」「やるべきだがやりたくないこと」「やらなくてもいいことだが、やりたいこと」「今の自分に欠けているもの」などが明確に自覚・整理され、自分の考え方や態度に変化が生じ、それによってポジティブな行動、生き方に繋がっていったからだと思います。

例えば、私は半年で15kg以上のダイエットに成功しましたが、それは、何かスペシャルなメソッドによるものではなく、意識や考え方の変容があったことで、行動が促されたということに尽きます。

さて、ここで、話を「授業」「学習」「教育」に転じてみます。

こうして1年間の目標や計画を立ててみて思うのは、学習とは、学習者自身が、自己の内部の欠乏や欲求を自覚することによって、目標が設定され、考え方や態度が変化し、そこで初めて行動に結びつくものではないかということです。

学習者が目標をもたない状態で、教師が一方的に知識や技能を注入する「授業」は、それがたとえ、効率的であったり、大量であったり、繰り返しのであったとしても（むしろそうであればあるほど）、成果は手に入らないと思います。なぜなら、学習とは、考え方、態度の変容を促すものであって、刺激に対する反応を強制するものではないはずだからです。

であるならば、教師が行う授業は、ことさらテストの点数に反映されることを急ぐのではなく、子ども・生徒に内発的な動機づけを与え、彼らに「自らを拡張・更新するチャンスを与える」ことを主眼におくべきではないかと私は思います。

そのためには、他者との対話、協働での問題解決、失敗を含めての体験や、教具等による抽象概念のイメージづくりなどの活動を意識的に行うことが教育の役割であり、教師の仕事でもあると思うのです。

